

株主のみなさまへ

# 第17期 決算のご報告

2020年4月1日から  
2021年3月31日まで

## 連結業績ハイライト

### 売上高

**3,865** 億円



### 営業利益

**248** 億円



のれん等償却前営業利益  
(2021年3月期)

**270** 億円 (前期比13.1%増)

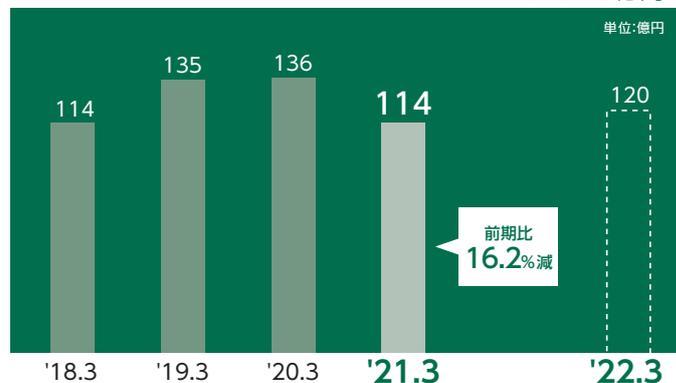
### 経常利益

**272** 億円



### 親会社株主に帰属する当期純利益

**114** 億円



のれん等償却前親会社株主に  
帰属する当期純利益  
(2021年3月期)

**135** 億円 (前期比15.0%減)

### 【次期の見通し】

次期連結業績予想につきましては、売上高は過去最高を見通しますが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う景気の不透明感が続くことに加えて、将来に向けた開発投資や主原料価格の動向を勘案し、営業利益、経常利益は減益を予想いたします。一方、特別損益等の影響を勘案し、親会社株主に帰属する当期純利益は増益を予想いたします。

## TOP MESSAGE

### 売上高は新型コロナウイルス感染拡大の影響により減少しましたが、営業利益、経常利益は過去最高益となりました。

平素より格別のご高配、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、ここに第17期(2020年4月1日から2021年3月31日まで)の業績や取り組みについて、ご報告申し上げます。

当連結会計年度における世界経済は、世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、景気が大幅に悪化しました。段階的に経済活動が再開していることに加え、ワクチン接種による感染収束への期待も高まりつつありますが、足元は感染の再拡大の影響により依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような経済状況の中、当社グループでは、主として国内外の自動車新車向け鉛電池や、プラグインハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売が減少したことなどにより、当連結会計年度の売上高は、3,865億11百万円と前連結会計年度に比べて90億42百万円減少(△2.3%)しました。営業利益は、国内外の自動車補修用鉛電池やハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売が堅調であったことなどにより、248億10百万円(のれん等償却前営業利益は270億69百万円)と前連結会計年度に比べて31億34百万円増加(14.5%)しました。経常利益は、営業利益の増益に加えて為替差益計上等営業外収支の改善により、272億79百万円と前連結会計年度に比べ41億69百万円増加(18.0%)しました。なお、営業利益、経常利益につきましては過去最高益となりました。これに対し、親会社株主に帰属する当期純利益は、減損損失を計上したことに加えて、一部連結子会社の収益力低下に伴い繰延税金資産の回収可能性を加味したこともあり、114億55百万円と、前連結会計年度に比べて22億19百万円減少(△16.2%)しました。



代表取締役  
取締役社長

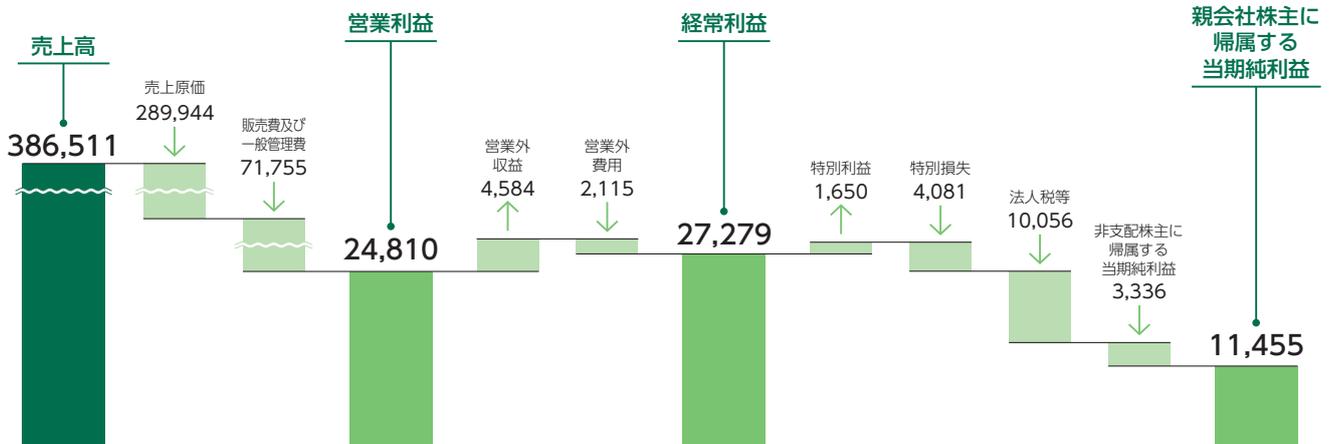
村尾 修

## 連結損益計算書

[当期(累計)]

(2020年4月1日～2021年3月31日)

(百万円)

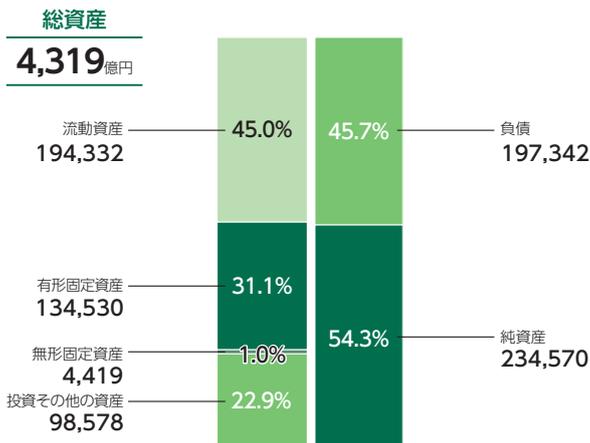


## 連結貸借対照表

[当期末]

(2021年3月31日)

(百万円)

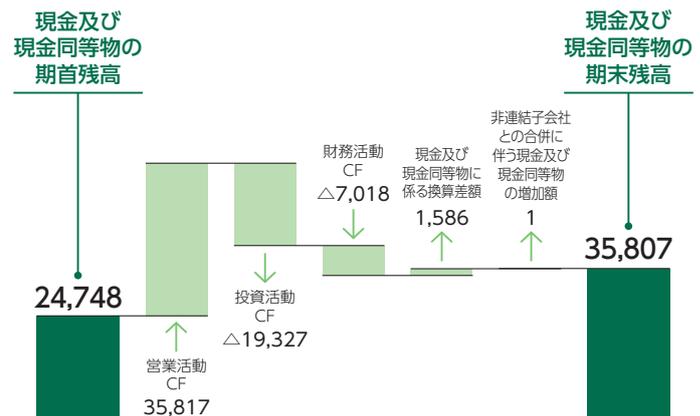


## 連結キャッシュ・フロー計算書

[当期(累計)]

(2020年4月1日～2021年3月31日)

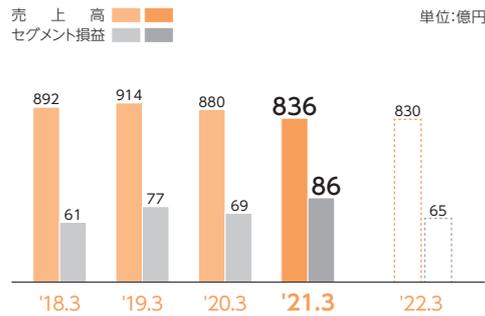
(百万円)



[セグメント別連結業績]



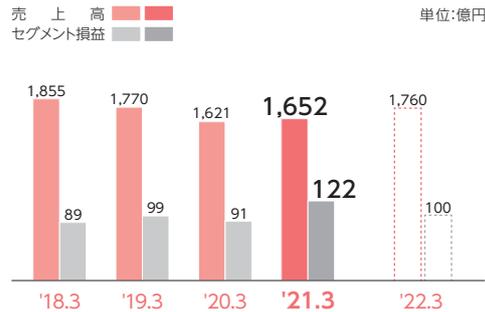
売上高  
**836**億円  
構成比  
**21.6%**



売上高  
前期比  
**5.0%減**  
補修用需要は堅調に推移したものの、新車の生産が大幅に減少したことによる新車用販売数量の減少に加え、鉛価格の下落に伴う販売価格の低下の影響により減少。  
セグメント損益  
前期比  
**24.3%増**  
補修用販売数量の増加により増加。



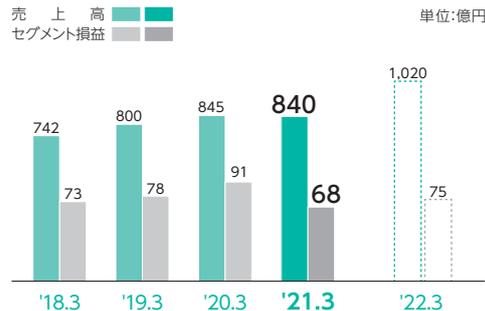
売上高  
**1,652**億円  
構成比  
**42.8%**



売上高  
前期比  
**1.9%増**  
アセアンを中心に新車用販売数量の減少はあったものの、欧州・豪州等を中心に補修用販売数量が増加したことにより増加。  
セグメント損益  
前期比  
**33.1%増**  
補修用販売数量の増加、鉛価格の下落の影響により増加。



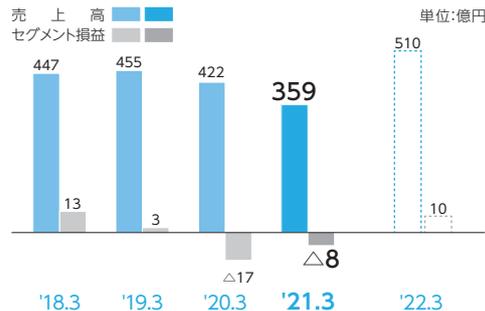
売上高  
**840**億円  
構成比  
**21.7%**



売上高  
前期比  
**0.6%減**  
大型風力発電用リチウムイオン電池の納入開始による増加はあったものの、バックアップ用電池電源の販売減少により減少。  
セグメント損益  
前期比  
**24.8%減**  
売上高構成の変化により減少。



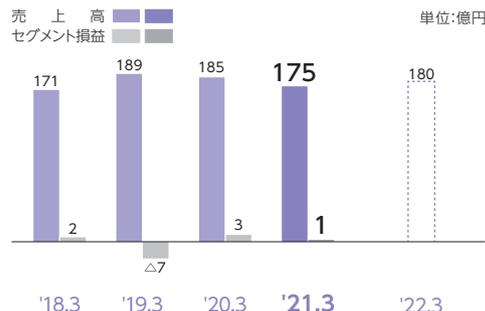
売上高  
**359**億円  
構成比  
**9.3%**



売上高  
前期比  
**14.9%減**  
ハイブリッド車用電池の販売は増加したものの、プラグインハイブリッド車用電池の販売が減少したことにより減少。  
セグメント損益  
前期比  
—  
ハイブリッド車用電池の販売が増加したことにより改善。



売上高  
**175**億円  
構成比  
**4.6%**



売上高  
前期比  
**5.1%減**  
主として航空機用リチウムイオン電池の販売が減少したことにより減少。  
セグメント損益  
前期比  
**57.6%減**  
前期に比べて減少。

(注) 1 セグメント損益はのれん等償却前営業利益です。

(注) 2 「自動車電池事業(海外)」には従来より取り扱う海外産業用電池の取引高の一部を含んでいましたが、2019年3月期より、「産業電池電源事業」に変更しています。2018年3月期のセグメント情報は、変更後の業績を記載しています。

(注) 3 2020年3月期より、従来「自動車電池事業(海外)」に含まれていた一部の連結子会社等について、「産業電池電源事業」にセグメントを変更しています。2019年3月期のセグメント情報は、変更後の業績を記載しています。

# カーボンニュートラル実現に向けての取り組み

「カーボンニュートラル」とは、企業や家庭から排出される温室効果ガス(温暖化ガス)を省エネルギー化によって削減するとともに、削減しきれない分を、森林などによる吸収量を差し引いて、実質的にゼロにする取り組みのことです。

2020年12月に経済産業省から「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」が発表され、自動車産業や蓄電池産業、土木インフラ産業、建築物産業など、14の重要分野ごとに目標を設けた政策が掲げられています。

## 当社の貢献



### 風力発電

再生可能エネルギーの出力変動緩和にリチウムイオン電池が貢献

#### 1 コスト競争力の強化

世界最大規模の案件へ納入したリチウムイオン電池をベースに、さらにコストダウン、容量および安全性を向上させた新機種を開発中。

#### 2 他社との協業とサービス強化

既存事業で培った電力会社・重電メーカーとの関係を活かし、協業を強化。O&M\*などのサービスを強化し、差別化を図る。

\*O&M: Operation & Maintenanceの略で、運営・保守点検のこと

主な取り組み



### エネルギーマネジメント

工場などで使用する電力のピークカット\*・ピークシフト\*に鉛蓄電池・リチウムイオン電池・電源システムが貢献

\*ピークカット: 使用電力の多い時間帯の電力の使用量を抑えるもの

\*ピークシフト: 電力の使用が少ない時間帯に電力を貯めておき、多く使用する時間帯に使うこと

#### 1 顧客ニーズに合った製品投入

蓄電池付パワーコンディショナのラインアップを拡充し、変化が激しい再生可能エネルギー市場での多様なニーズに対応。

#### 2 遠隔監視サービスを展開予定

広域なサービス体制に加え、24時間遠隔監視システムを構築し、PPA\*など新しい所有形態にもマッチしたサービスを展開予定。

\*PPA: Power Purchase Agreementの略で無償設置・第三者所有モデルのこと

主な取り組み



### 物流

フォークリフトやコンテナを搬送する港湾無人搬送車 (AGV)、ガントリークレーンの電動化に鉛蓄電池・リチウムイオン電池が貢献



### 環境対応車

電動車を中心とした環境対応車の普及に鉛蓄電池・リチウムイオン電池が貢献

## GSユアサグループの環境長期目標2030

温室効果ガス削減目標

30%以上

基準年

2018年度

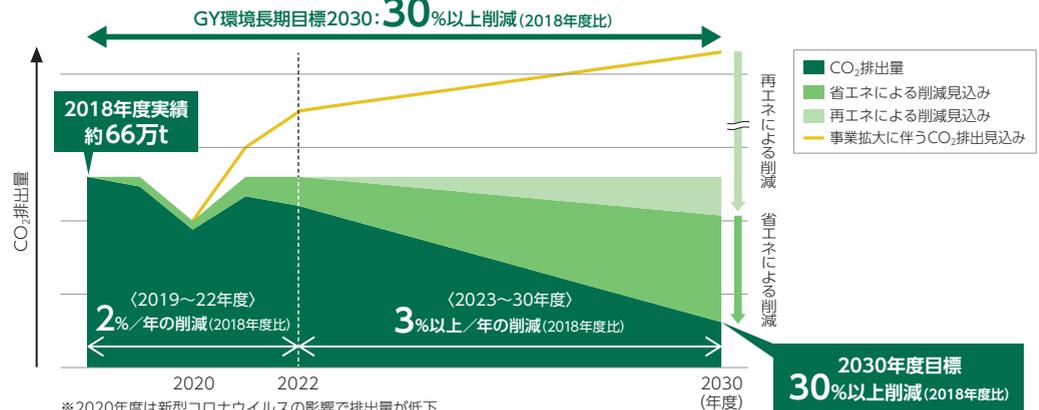
最終年

2030年度

対象範囲

国内7事業所、海外20事業会社

### CO<sub>2</sub>削減のロードマップ



## PICK UP

### 京都事業所内にバーチャルパワープラント(VPP)対応の電力貯蔵システム(ESS)を追加導入

2017年に導入したESSに加え、2021年2月にESSを追加導入したことで、事業所の電力コストのさらなる低減はもちろん、大規模災害発生時の従業員の安全確保と事業継続機能の向上に貢献します。



# TOPICS

## TOPICS1

### 令和3年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞を受賞

株式会社 GSユアサは、文部科学省が主催する「令和3年度科学技術分野の文部科学大臣表彰」において、「宇宙用リチウムイオン電池およびその運用技術の開発」により、「科学技術賞(開発部門)」を受賞しました。「科学技術賞(開発部門)」は日本の社会経済、国民生活の発展向上等に寄与し、実際に活用されている画期的な研究開発もしくは発明を行った者に贈られるものです。

今回受賞した、GSユアサにおける「宇宙用リチウムイオン電池およびその運用技術の開発」を通じて、耐久性に優れる電池構造を発明し、また電池の劣化モデルに基づく寿命予測技術を確立したことで、リチウムイオン電池の宇宙空間での使用が可能になりました。当社の宇宙用リチウムイオン電池の高い信頼性が認められ、多数の人工衛星や国際宇宙ステーションに採用されています。

GSユアサは今後も、技術の革新に挑み続け、エネルギーの未来を創造してまいります。



宇宙用リチウムイオン電池(セル)

#### 受賞の概要

#### 科学技術賞 (開発部門) 「宇宙用リチウムイオン電池 およびその運用技術の開発」

##### ①受賞者

吉田 浩明  
常務執行役員 研究開発センター長



##### ②開発技術の概要

###### (1)気密構造の開発

宇宙空間における電池内外の差圧に耐えることが可能な気密構造の開発により、金属ロウと電解液中のリチウムとの合金化反応を抑制し、腐食を防止して長期間の気密封止を実現しました。

###### (2)劣化モデルの構築

長期間の劣化試験に基づき、リチウムイオン電池の劣化モデルを構築しました。この劣化モデルはリチウムイオン電池の劣化や寿命を推定するための基本技術として、劣化メカニズムのさらなる解明のための礎となっています。

## TOPICS2

### 当社ハイブリッド車用リチウムイオン電池がトヨタ自動車「技術開発賞」を初受賞

株式会社 GSユアサとその子会社である株式会社ブルーエナジーは、トヨタ自動車株式会社より「技術開発賞」を共同で受賞しました。

「技術開発賞」は、革新的な技術でものづくりを推進したサプライヤーに授与される賞です。

このたびの受賞は、ブルーエナジーが製造し、GSユアサがトヨタ自動車へ販売するハイブリッド車用リチウムイオン電池「EHW4S」の開発が評価されたものです。「EHW4S」は、優れた低抵抗化技術の採用により、入出力特性を当社従来製品と同等とした上で、ハイブリッドシステムに求められるエネルギー量の最適化を行い、当社従来製品から10%以上の軽量化と20%以上の小型化を実現しました。

GSユアサは、2009年にハイブリッド車用の高性能リチウムイオン電池の開発・製造・販売を行う合弁会社としてブルーエナジーを設立し、これまでにハイブリッド車140万台分以上の電池を安定的に供給してきました。これらの豊富な実績と高度な技術力で、今後も環境対応車の普及拡大に貢献してまいります。



## TOPICS3

### 株主・投資家情報サイトに「個人投資家のみなさまへ」ページを新規公開



個人投資家のみなさまに向けた情報発信を強化するため、株主・投資家情報サイト内に「個人投資家のみなさまへ」ページを公開しました。さまざまなコンテンツを掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

#### GSユアサがよくわかる6Questions

当社の事業や強みについて、イラストやグラフを交えてわかりやすくまとめています！

#### 個人投資家向け会社説明動画・説明資料

当社の実績や今後の戦略などについて動画や資料で詳しくご説明しています！

●こちらからアクセスできます

<https://www.gs-yuasa.com/jp/ir/individual/>



## 会社概要 (2021年3月31日現在)

商号	株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション (GS Yuasa Corporation)
事業目的	電池を中心とした事業を営む傘下のグループ企業の経営戦略を策定、統括し、グループの企業価値の最大化を図る。
設立	2004年4月1日
資本金	33,021百万円
本社所在地	京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1番地 電話(075)312-1211
ホームページ	<a href="https://www.gs-yuasa.com/jp">https://www.gs-yuasa.com/jp</a>
上場金融商品取引所	東京証券取引所 市場第一部

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会および期末配当:毎年3月31日 中間配当:毎年9月30日
株主名簿管理人 特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) [受付時間 9:00~17:00 (土・日・祝祭日を除く)]
公告方法	電子公告とし、当社ホームページ( <a href="https://www.gs-yuasa.com/jp/ir/">https://www.gs-yuasa.com/jp/ir/</a> )に掲載いたします。ただし、事故その他のやむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

## 役員 (2021年6月29日現在)

### [株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション(純粋持株会社)]

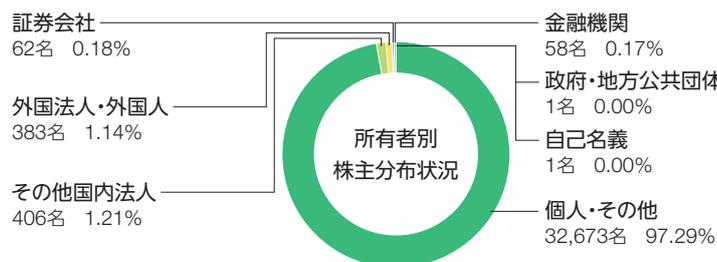
代表取締役 取締役社長	村尾 修
代表取締役 取締役副社長	中川 敏幸
常務取締役	澁谷 昌弘
取締役	福岡 和宏
社外取締役	大谷 郁夫
社外取締役	松永 隆善
社外取締役	野々垣 好子
監査役(常勤)	村上 真之
監査役(常勤)	古川 明男
社外監査役(非常勤)	藤井 司(弁護士)
社外監査役(非常勤)	辻内 章(公認会計士)

### [株式会社 GSユアサ(事業子会社)]

代表取締役 取締役社長	村尾 修
代表取締役 取締役副社長	中川 敏幸
常務取締役	沢田 勝
常務取締役	澁谷 昌弘
取締役	奥山 良一
取締役	中川 正也
取締役	福岡 和宏
取締役	谷口 隆
取締役	大前 孝夫
取締役	松島 弘明
監査役(常勤)	村上 真之
監査役(常勤)	古川 明男
社外監査役(非常勤)	松山 秀樹(税理士)

## 株式の状況 (2021年3月31日現在)

発行可能株式総数	発行済株式総数	株主数
280,000,000株	82,714,942株	33,584名



### ●大株主(上位10名)

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	9,610,900	11.91
(株)日本カストディ銀行(信託口)	5,490,800	6.81
明治安田生命保険(相)	2,800,000	3.47
トヨタ自動車(株)	2,236,080	2.77
(株)三菱UFJ銀行	1,865,467	2.31
日本生命保険(相)	1,789,133	2.22
ピービーエイチ グローバル エックスリチウムアンドバッテリー テック イーティーエフ	1,604,498	1.99
(株)京都銀行	1,548,069	1.92
三井住友信託銀行(株)	1,470,800	1.82
(株)三井住友銀行	1,421,703	1.76

※出資比率は、発行済株式数から自己株式数を減じた株式数(80,675,522株)を基準に算出しています。

## 株主 インフォメーション

### ○住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社等にお申出ください。なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### ○未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

(注)1 本報告書に記載の金額は表示単位未満を切り捨てて、比率は四捨五入しております。  
(注)2 本報告書に含まれている将来予測等は作成日現在において入手可能な情報に基づくものであり、今後様々な要因によって予測等と異なる結果となる可能性があります。